



学校体育功労賞を受賞して

菊池市立七城中学校 校長 桐 陽介

令和元年度熊本県学校体育功労賞というすばらしい賞をいただき、心から感謝申し上げます。これもひとえに熊本県教育委員会をはじめ、菊池管内2市2町の教育委員会、熊本県・菊池郡市中学校体育連盟及び研究会の先輩方や関係者の皆様のおかげであると、重ねてお礼申し上げます。

さて、私が教師の職を目指し始めたのは、高校時代に所属していた剣道部の顧問、体育教師の村上敬徳先生との出会いでした。先生は、眼光鋭く威厳の塊のような存在でしたが、厳しさの中に温かさを持たれる方で、信念は「克己（物事に対する時は、人は必ず心に邪念が生じる。まずは、己の邪念に勝つ心を培わなければ、物事に対処することはできない）」でした。

村上先生は、部員自らが主体的に活動する環境づくりを常に心掛けられておられました。また、部員一人ひとりの性格や特徴を驚くほど把握されており、部員一人ひとりに応じた関わり方を、場や状況に合わせて臨機応変に対応される天才でもありました。そのような先生の魅力に惹かれ、何時しか、自分もこのような教師になりたいという気持ちが芽生えてきたのを、今でもはっきりと記憶しています。

昭和58年4月1日。教職員としてスタートした日です。松橋西養護学校（現支援学校）、泗水西小学校の勤務を経て、平成3年4月から中学校体育教師を拝命し剣道部担当となりました。

体育教師としては、先輩たちのご指導の下、「生徒たちが生き生きと体育学習を展開する授業」を目指し、様々な研究会に参加するとともに授業研究会での公開授業に積極的に手を挙げていきました。「体育教師とし一人前になる。」これが目標でした。

剣道部指導者としては、自信のない試合運びをする部員に、どうしたら自信を持って試合展開ができるようになるのか、県内外の有力校をこっそりと通常の練習内容や試合前の調整の方法を見学したりしました。また、保護者の試合送迎用車に学校名のステッカーを貼り付けてもらい、意気込みを外へ発信する協力もいただきました。

さらに、「菊池が熊本県をとる。」を合言葉に指導者の会を作り、学校持ち回りの練成会や酒を酌み交わしての反省会を行い、菊池が一丸となった競技力向上を目指した取組みに発展したことを思い出します。

先日、村上先生とお会いする機会があり、高校時代を懐かしく語り合った中で、次のようなことを話されました。「剣道部は、剣道をやりたいという意味を持つ者が集まった集団（組織）である。集団（組織）は、そこに集まった者の総意で決定した目標に向かって、各人が、額に汗をかき、取り組む姿があつてこそ、その意味を成す。指導者も然り。」と。

体育教師は、多くの職業がある中で、「体育教師の仕事をしたい。」という目的を持って、この職を選んだ者たちであると思っています。

ならば、どんなに社会が急激に変化しようとも、どんなに学校教育が直面する課題が多岐に渡って来ようとも、「子どものことを第一に考え、子ども一人ひとりを大切に教育」を、石にしがみついても進めていこうとする「体育教師の意地」を決して忘れてはいけません。

その意地があるからこそ、体育教師自らの人間力が培われ、体育指導力が高められ、子ども及び保護者からの信頼を深め、「一人前の体育教師」となるのだと、私は思っています。

「体育教師はおもしろい。」「体育教師はやりがいがある。」

最後になりますが、今後の熊本県中学校体育連盟・体育研究会の発展を祈念するとともに、これまでのご指導・ご鞭撻に感謝申し上げます、お礼の言葉とします。ありがとうございました。